



オリンパス株式会社

会社案内

2024年4月発行, 2025年1月更新



OLYMPUS

True to Life

「True to Life」は、私たちの存在意義のために尽力し続けるオリンパスの姿勢を表しているグローバルブランドメッセージです。

オリンパスは、人生を豊かに送るための機会が全ての人に与えられるべきと考えています。誰もがその一度きりの機会を最大限に生かせるように、医療技術によるソリューションを日々進歩させることで、全ての人の好奇心や向上心、夢、志を満たし、心の豊かさを実現します。



01 グローバル・メドテックカンパニーとして

02 オリンパスの事業

03 経営戦略

04 持続可能な社会の実現のために

05 健やかな組織文化醸成に向けて

06 会社情報

07 付録



01

グローバル・メドテックカンパニーとして

A photograph of a woman with long blonde hair hugging a young child from behind. The woman is smiling and looking upwards. The child is wearing a dark quilted jacket. The entire image has a blue color overlay. Large yellow quotation marks are positioned on the left and right sides of the text.

“

世界の人々の健康と安心、心の豊かさの
実現のために私たちは今後も邁進します。

”

OUR PURPOSE 私たちの存在意義

Making people's lives healthier, safer and more fulfilling
世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現

OUR CORE VALUES



PATIENT FOCUS
患者さん第一

私たちは、
いかなる時も患者さんを
最優先に考えて行動します



INTEGRITY
誠実

私たちは、
正しい行動を取ります



INNOVATION
イノベーション

私たちは、
物事をより良くするために、
新しい方法を追求します



IMPACT
実行実現

私たちは、
結果に対する責任を持ち、
やり遂げます



EMPATHY
共感

私たちは、
お互いを思いやり、
協力します

患者さんへの貢献

1,900,000

大腸がんの罹患者数／年*

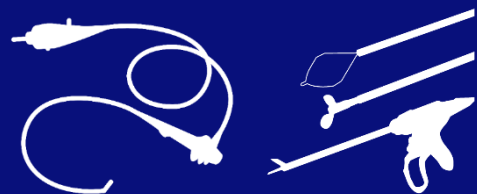
Source: GLOBOCAN 2022

48,000,000

大腸内視鏡件数／年*

*グローバル：米国、カナダ、ポーランド、韓国、オーストラリア、インド、ロシア（2022年時点）、日本、ドイツ、フランス、イタリア、スペイン、英国（2021年時点）、中国（2019年時点）

患者さんへの貢献



100

適応可能な疾患数

オリンパスは100*の疾患の治療に役立つ様々な医療機器を提供しています

* 2024年4月現在

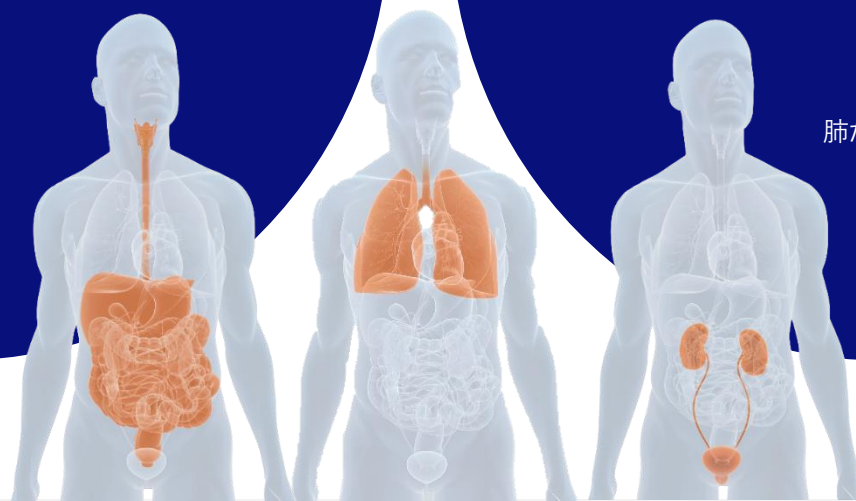


TOP 3

罹患数の多い3つのがん

オリンパスは、罹患数の多い5つ*のがんのうち、肺がん、胃がん、大腸がんへの治療機器を提供するとともに、その他のがんの治療機器の開発も行っています。

*乳がんと前立腺がんを除く、罹患数の上位 3 つ
Source: GLOBOCAN 2022



世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現のために



28,838

全従業員数*

* 2024年3月現在

37

拠点のある国や地域*

* 2024年3月現在

世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現のために



TOP 100

Global Innovator

オリンパスは、2012年から2020年にかけて、および2022年、2023年に、世界で最も革新的な企業トップ100に選ばれています

<https://clarivate.com/top-100-innovators/>



294

Awards

オリンパスは、1966年以来、革新的なデザインに対して国内外から表彰されています*

*2024年3月現在



15,000

特許の保有件数*

*2024年3月現在



CO2 “0”

2030年までに CO2排出量*を実質ゼロに

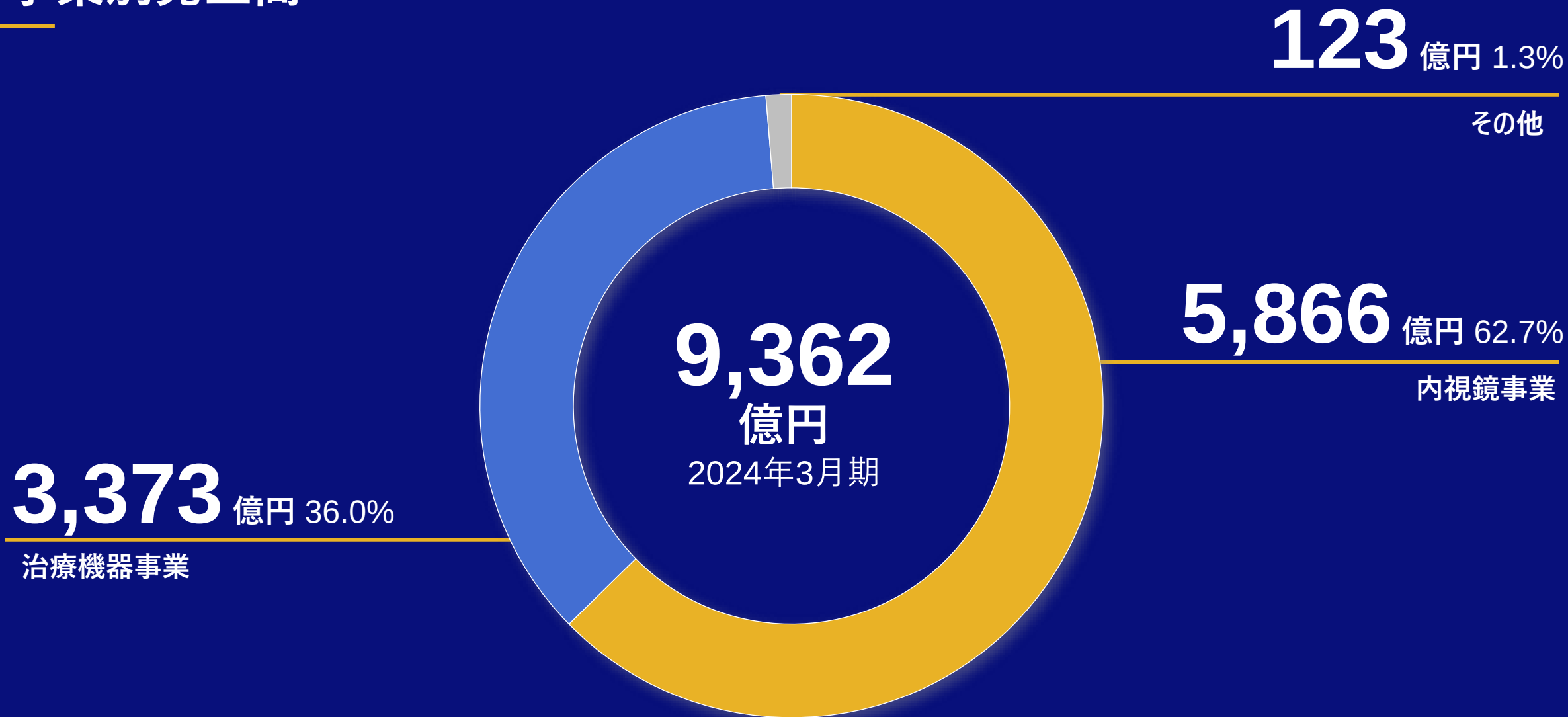
*自社事業所からのCO2排出量

A female surgeon in a blue operating room, wearing a surgical cap and mask, holding a surgical instrument. The background is blurred, showing other medical staff in blue scrubs.

02

オリンパスの事業

事業別売上高

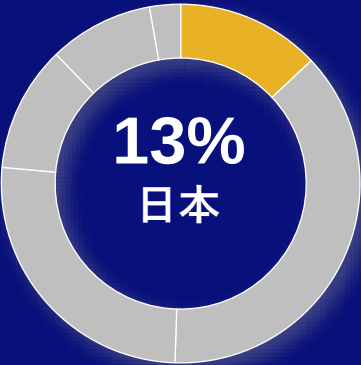


地域別売上高

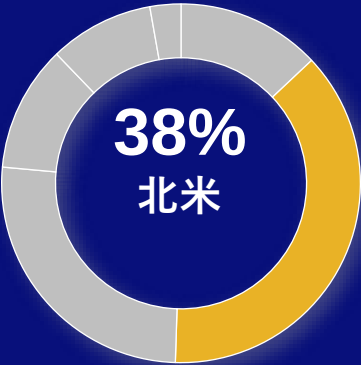


9,362 億円

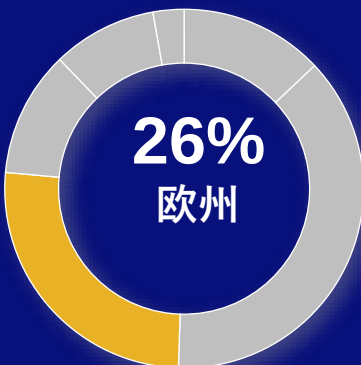
2024年3月期



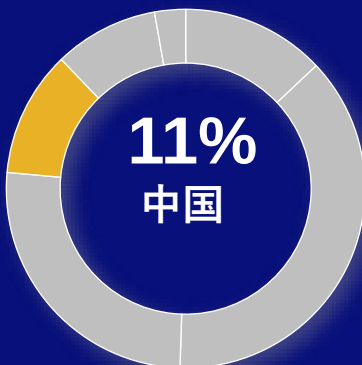
1,215億円



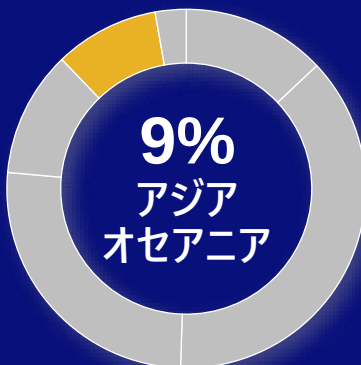
3,513億円



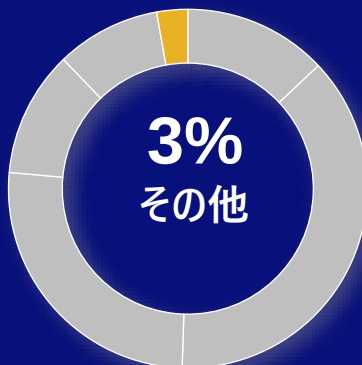
2,428億円



1,063億円

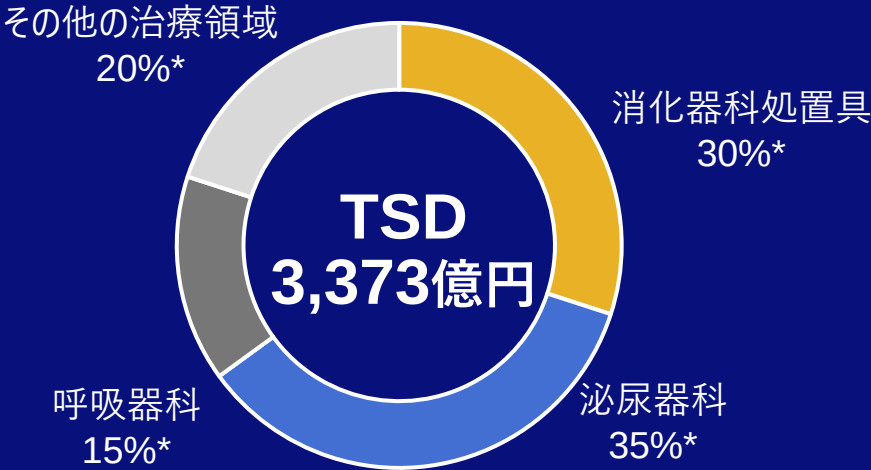
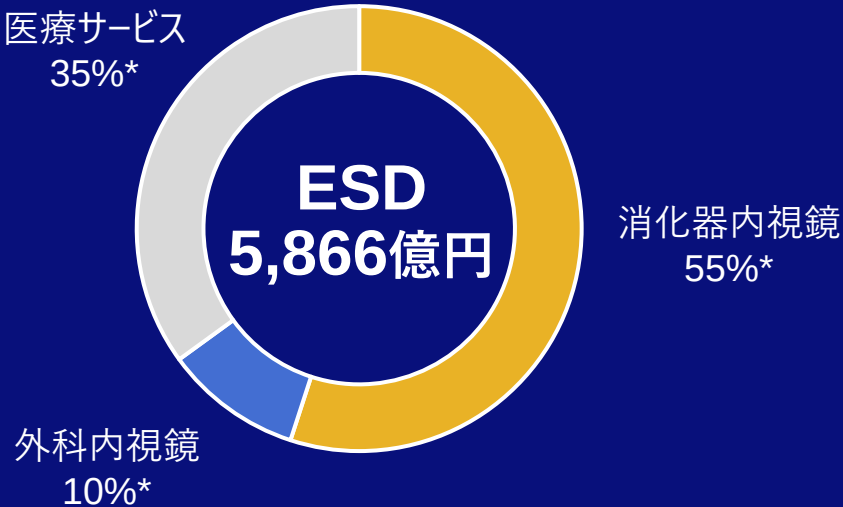
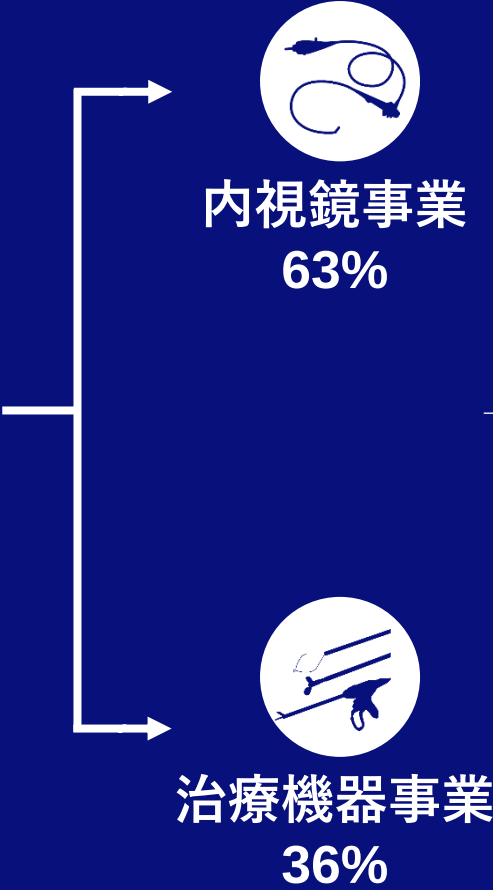
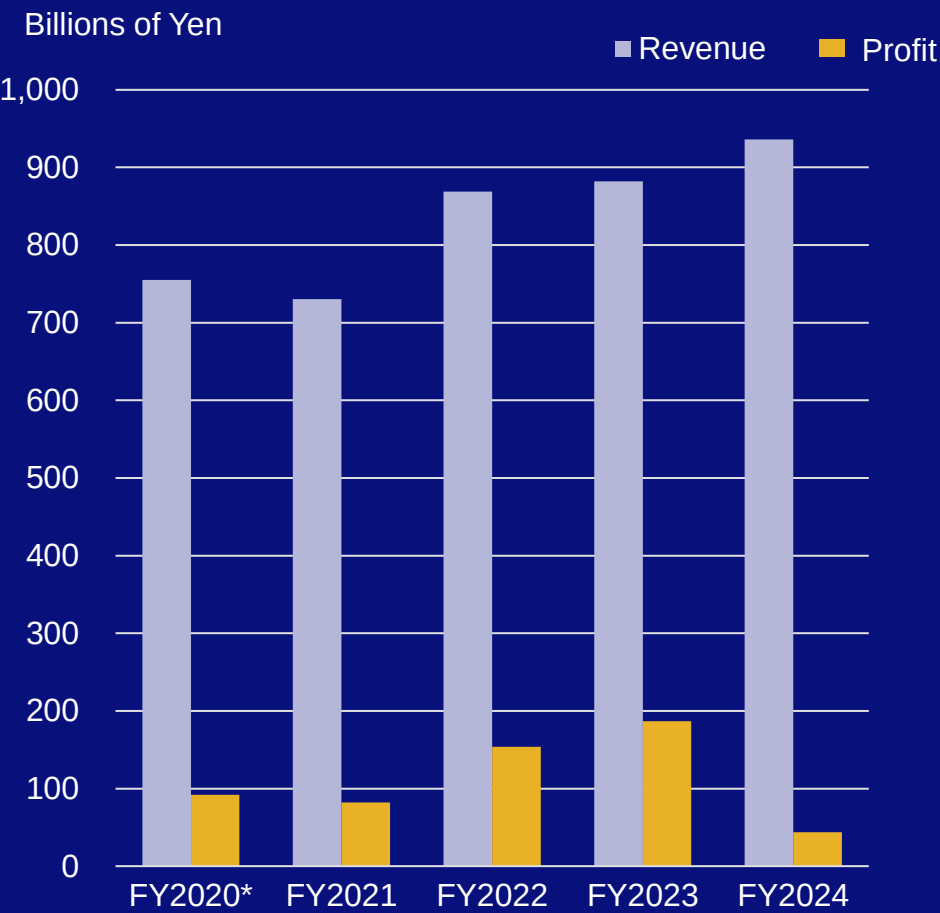


881億円



261億円

売上高・営業利益の推移



*2021年1月1日に、日本産業パートナーズ株式会社が設立した特別目的会社に対して、映像事業を譲渡しました。
これに伴い、2021年3月期第2四半期連結会計期間より、映像事業を非継続事業に分類し、過去に開示した2020年通期の数値も組み替えて表示しています。
*Due to rounding, the total may not add up to 100%

内視鏡事業：Endoscopic Solutions

消化器内視鏡システム



消化器内視鏡ビデオスコープシステム



超音波内視鏡システム

外科内視鏡システム



外科手術用内視鏡システム

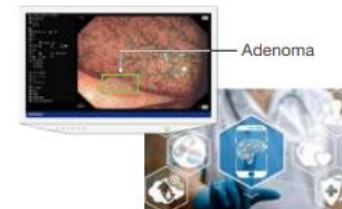


外科用顕微鏡

カスタマーソリューション (デジタル医療ソリューション等)



インテリジェント内視鏡医療エコシステム
オペレーティング・ソフトウェアプラットフォーム



AI によるインサイトと検出／診断支援



手術室システムインテグレーション

リプロセス

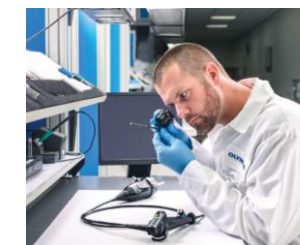


内視鏡自動洗浄消毒装置



医薬品、付属品、周辺機器

修理サービス



リペアセンター

注：医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

治療機器事業：Therapeutic Solutions

内視鏡用処置具



大腸内視鏡用
デバイス



高周波ナイフ



ERCPデバイス



止血デバイス



泌尿器科



イメージング技術



結石治療



前立腺肥大症
低侵襲治療デバイス



高周波手術装置

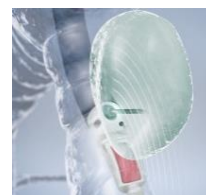
呼吸器科



気管支鏡
システム



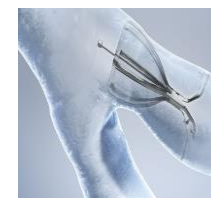
気管支鏡用
処置具



EBUS気管支鏡および
EBUS-TBNA針



気管支内
バルブシステム



エネルギーデバイス



エネルギーデバイス

耳鼻咽喉科



耳鼻咽喉
ビデオスコープ



03

經營戰略

基本的な指針

患者さんの安全と
持続可能性



- 1 米食品医薬品局（FDA）に対するコミットメントを遂行し、各国規制当局との信頼関係を構築
- 2 健やかな組織文化とESGを推進

成長のための
イノベーション



- 3 オリンパスブランドの強化、顧客体験価値向上
- 4 戦略的なイノベーション・買収を通じた事業の成長

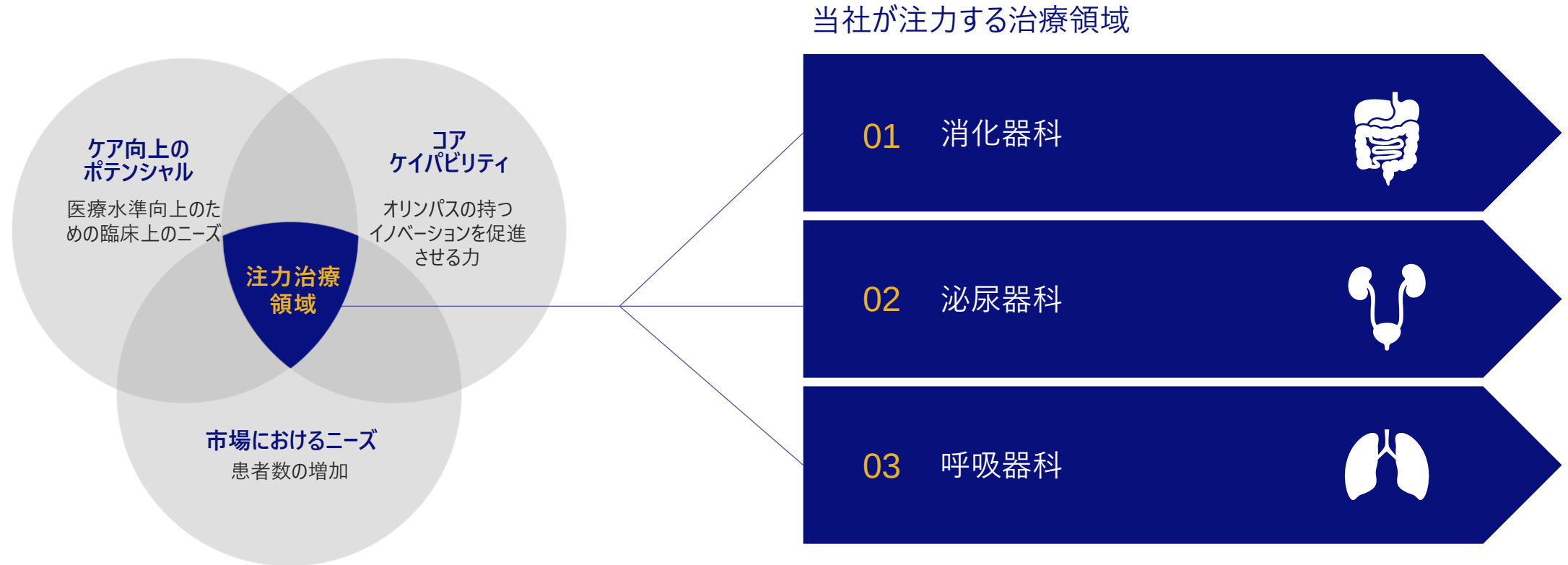
生産性の向上



- 5 患者さんの安全と製品の品質を重視したパフォーマンスの高い組織を構築
- 6 効率的で無駄のない経営

“
世界の人々の健康と安心、
心の豊かさの実現
”

オリンパスは3つの治療領域に注力することで成長を目指す



医療水準の向上に貢献するために、当社のコアケイパビリティによって差別化されたソリューションを提供し、ニーズが高まっている3つの治療領域に注力しています。

FY2025展望:価値の源泉に基づく力強い回復

事業拡大と グローバル展開



- ① 北米における消化器科
領域の成長に期待
- ② EVIS X1に対するポジティブな
フィードバック
- ③ 新興国市場における成長
機会

ケア・パスウェイ の強化



- ④ 当社初のシングルユース
尿管鏡が米国FDAの
認可を取得

インテリジェント 内視鏡医療 エコシステム



- ⑤ ロードショーが成功、
FY2025下期に欧州で
初めて発売予定

戦略的M&A



投資とイノベーションを可能にする取り組み



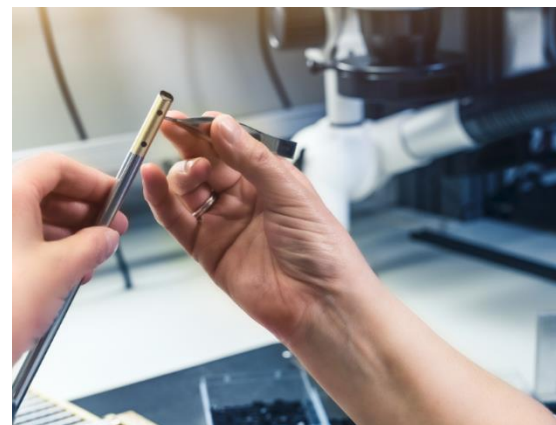
QA/RA – グローバルな変革活動

- グローバルな品質システムの導入に向けて **QA/RA機能の改革**を実行
- グローバルな品質、コンプライアンス機能の統合による、一貫した施策展開
- コンプライアンス上の問題を解決し、**是正活動を完遂**



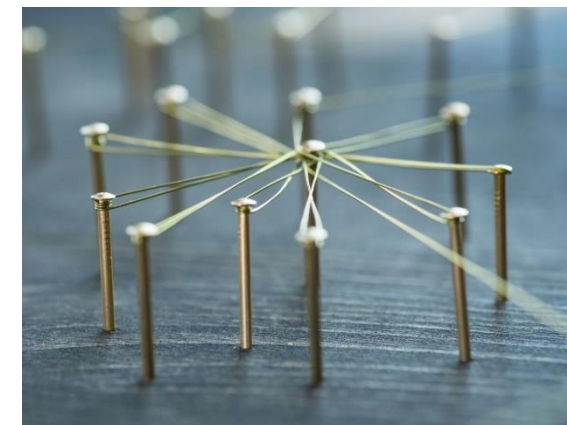
R&D – イノベーションを加速する投資

- アンメットニーズに対応したイノベーション手法を導入
- 将来のイノベーションの原動力となる適切な投資
- 積極的な**戦略パートナーシップ**推進
- 市場導入までのスピードを加速



製造 & SCM – 原価改善の 取り組み

- 効率とコストの改善を通じて、目的に見合った組織と業務プロセスを目指す
- 拠点とリソースの合理化、迅速な効率改善、調達・サプライチェーンのベストプラクティス実践、デジタル化などの取り組み



グローバルTOM* – 業務改善による効率を実現

- グローバルなガバナンス・業務体制のさらなる改善により、イノベーション推進の**実現**に投資できる、ハイパフォーマンスなグローバル・メディテックカンパニーへと進化
- 部門横断型の効果的な意思決定システムを構築し、リソースを効率的に配分することで、重要プロジェクトへの投資と実行体制を実現

*TOM = target operating model

業界最高クラスの基準に則って、患者さんの安全を確保

FY24-26 財務ガイドンス

安定的な価値創造と競争力のある成長を実現

 売上高成長率*	約 5%  CAGR from FY2023 Endoscopic Solutions Division ESD 5% Therapeutic Solutions Division TSD 5%超
 EPS成長率**	約 8% CAGR from FY2023
 営業利益率**	約 20%

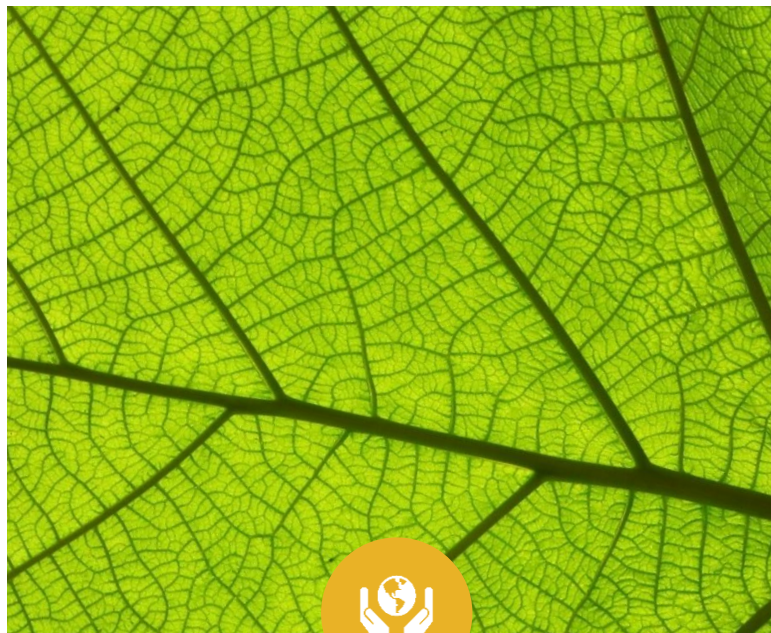
*為替前提を固定 **特殊要因調整後 - その他の収益および費用等を除く - 為替レート変動による影響は調整せず。実際の為替レートを使用

A photograph of a woman and two young girls of African descent planting seedlings in a garden. The woman is smiling and looking down at the plants. The girls are focused on their task. The image has a blue tint and a semi-transparent dark blue overlay. The text '04' is in yellow, and the title is in white.

04

持続可能な社会の実現のために

ESGにおける課題*



Environment 環境

- 気候変動への対応
- 脱炭素・循環型社会への貢献
- 温室効果ガスの削減
- 水・廃棄物の削減



Social 社会

- 人権
- 多様性、平等性、インクルージョン
- 労働環境の安全性
- 医療機会の幅広い提供およびアウトカムの向上



Governance ガバナンス

- リスクマネジメント・危機管理
- 経営体制の強化
- 取締役会における多様性
- 情報開示の透明性

*一例のみ / すべてを網羅したものではありません

6つのESG重点領域と最優先マテリアリティ項目



医療機会の幅広い提供およびアウトカムの向上

医療アクセス及び医療公平性改善への貢献



コンプライアンスおよび製品の品質安全性への注力

製品、サービス、ソリューションの品質と安全性の確保



責任あるサプライチェーンの推進

サプライチェーンのリスク軽減と耐性の確保



健やかな組織文化

ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョンの推進



社会と協調した脱炭素・循環型社会実現への貢献

プロダクト・スチュワードシップを通じた循環型社会の実現、脱炭素への取り組み（スコープ1、2、3）



コーポレートガバナンス

コーポレートガバナンスと情報開示の透明性の確保

フォーカスエリア 1: 医療機会の幅広い提供およびアウトカムの向上



医療分野は、当社が最も強みを発揮できる社会貢献の領域です。より高い医療成果につながるイノベティブな製品の提供、医療従事者へのトレーニング機会の提供などを通じて社会への貢献を目指します。

重要課題（マテリアリティピックス）

トッププライオリティ

- 医療アクセスおよび医療公平性改善への貢献
 - 医療公平性改善への貢献
 - 医療従事者へのトレーニング機会・技術向上機会の提供
 - 高度医療製品へのアクセス性向上に向けた取組

目標・KPI

対象の新興国・地域におけるCRC*関連のトレーニング開催数： **+20%**

医療従事者を対象としたCRC*関連のオンライン／

ハイブリッド型トレーニング開催数： **+20%**

*CRC: Colorectal cancer（大腸がん）

ハイプライオリティ

- より良い医療効果を実現するイノベーションへの取り組み
- 早期発見・早期治療の重要性に対する認知度向上への取り組み

その他

- 企業市民活動および慈善活動

貢献するSDGs



フォーカスエリア2：コンプライアンスおよび製品の品質安全性への注力



医療機器を提供する企業として、
最優先すべきは「患者さんの安全」です。
腐敗防止などのコンプライアンス遵守および、
製品の品質安全性確保のための各国法規制に
確実に適合するように努めています。

重要課題（マテリアリティピックス）

トッププライオリティ

- 製品、サービス、ソリューションの品質と安全性の確保

目標・KPI

適時適切なESG情報開示（SASB基準*に沿った開示）

*SASB基準：SASB (Sustainability Accounting Standards Board: 米国サステナビリティ会計基準審議会) が公開した非財務情報公開の標準化に向けた基準。業種別の開示スタンダードが策定されている。

ハイプライオリティ

- 事業活動倫理とコンプライアンスの徹底遵守
- プライバシー、情報セキュリティ、サイバーセキュリティの保全

その他

- 税の透明性
- 倫理性・誠実性に基づいたマーケティング活動
- リスク管理・危機管理の強化とリスク認識を意識した企業文化の醸成
- 製造技術改善に向けたイノベーションへの取り組み

貢献するSDGs



フォーカスエリア3：責任あるサプライチェーンの推進



医療機器の安定的な提供は、社会における医療の安定的供給に不可欠です。製品の安定的提供の責任を果たすと同時に、サプライヤーとともに、環境や人権などの社会課題にも取り組んでいきます。

重要課題（マテリアリティピックス）

トッププライオリティ ■ サプライチェーンのリスク軽減と耐性の確保

目標・KPI

年次評価／モニタリング：

サプライチェーンにおけるリスク評価・モニタリングの実施

ハイプライオリティ ■ サプライチェーン管理上における人権尊重へのコミットメント

貢献するSDGs



フォーカスエリア4：健やかな組織文化



当社が目指す健やかな組織文化とは「私たちの存在意義を実現するため、従業員一人ひとりがベストな状態でパフォーマンスを発揮できる文化」と定義し、その実現に向けたさまざまな施策に取り組んでいます。

重要課題（マテリアリティピックス）

トッププライオリティ ■ ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン

目標・KPI

グローバルなマネジメントポジションにおける女性の割合

2028年3月期までに実現：**30%**

日本*における男性社員の育児休業等取得率

2026年3月期までに実現：**100%** * オリンパス株式会社が対象

ハイプライオリティ

- 従業員の能力開発とエンゲージメントの向上
- 労働安全衛生の確保と人権尊重への取り組み

貢献するSDGs



フォーカスエリア5：社会と協調した脱炭素・循環型社会実現への貢献



気候変動は地球環境を脅かす
重大な課題であるとともに、当社の事業活動にも影響を
およぼす課題であると認識しています。
今後カーボンニュートラルの達成に向けて、
各種取り組みを推進していきます。

重要課題（マテリアリティピックス）

- トッププライオリティ**
- Scope1 / 2カテゴリでの脱炭素への取り組み
 - Scope3カテゴリでの脱炭素への取り組み
 - 循環型社会実現へ貢献する製品ライフサイクル管理

目標・KPI

ネットゼロ：

2040年までにScope1 / 2 / 3の温室効果ガス排出量を実質ゼロに

カーボンニュートラル：

2030年までに自社事業所からのCO2排出量（Scope1/2）を実質ゼロに

ハイプライオリティ

- 水資源と廃棄物の適切な管理
- 気候変動リスクへの対応

その他

- 環境関連の情報開示の透明性確保

貢献するSDGs



フォーカスエリア6：コーポレートガバナンス



当社は長年にわたりステークホルダーの皆さまから
信頼される企業であり続けるために、
コーポレートガバナンスの強化に注力してきました。
当社がサステナブルであるために極めて重要な課題と
認識し、今後も継続して強化に努めます。

重要課題（マテリアリティピックス）

トッププライオリティ ■ コーポレートガバナンスと情報開示の透明性確保

目標・KPI

エンタープライズリスクマネジメント：
一貫性・継続性を確保したグローバルでの実施

その他

- 多様なステークホルダーとの対話
- 取締役会における多様性の確保

貢献するSDGs

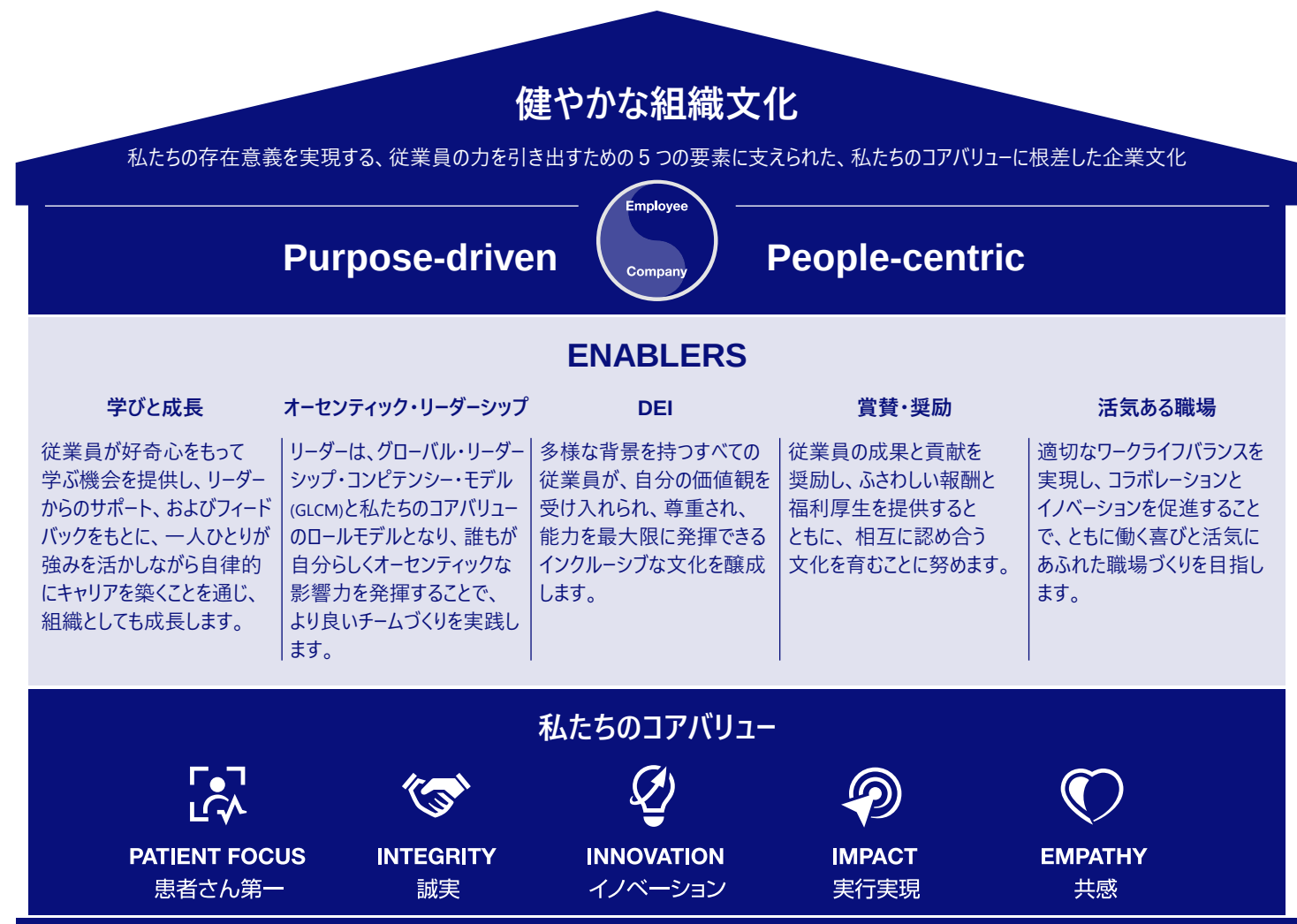




05

健やかな組織文化醸成に向けて

企業文化における進化



健やかな組織文化

当社が目指す健やかな組織文化とは、私たちの存在意義である「世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現」のために、従業員の力を最大限に引き出す企業文化を創造するというオリンパスのビジョンそのものです。コアバリューを体現し、それに沿った行動をとることが、健やかな組織文化の醸成の土台となります。

企業文化を醸成し、私たちの存在意義を実現するためには、“people-centric”（お客さまや患者さんのことと同様に、従業員一人ひとりのことを第一に考える）の視点に立ち、世界中のお客さまや患者さんに、より良いサービスや価値を提供できる組織運営を実践していくことが、何よりも重要と考えています。

従業員エンゲージメントとエンゲージメント調査

2021	コアバリューサーベイ ▪ フォローアップ施策：それぞれの地域でサーベイから抽出した課題を改善するためのアクションを実行
2022	コアバリューサーベイ・チェックイン（中間調査） ▪ FDAから警告書を受領 ▪ 総合的な品質変革プログラム「Elevate」を開始
2024	コアバリュー改訂 ▪ 新たなコアバリューを浸透させる取り組みを実施
2025 前半	コアバリューサーベイ ▪ 新たなコアバリューに沿ったサーベイを実施予定

「コアバリューサーベイ」の結果を踏まえ、施策を展開し、進捗を管理しています。全社的には、執行役による現場訪問や、意思決定、プロセスの最適化、従業員のワーク・ライフ・バランスの現状の可視化とそのフォローアップ、働き方改革のグローバルガイドラインの強化・最適化などの取り組みを行ってまいりました。

2022年11月には、コアバリューサーベイ・チェックインを実施し、組織の現状を確認するとともに企業文化と従業員エクスペリエンスを向上させるための活動を強化しました。

現在、定期的に従業員の声に耳を傾け、よりよい企業文化や職場環境を実現するための長期的な仕組みづくりに取り組んでいます。次の施策として、2025年前半にコアバリューサーベイを計画しています。

プロフェッショナル人材の育成と地域を超えたコラボレーションを支える能力開発・研修

	私たちの存在意義、 価値観とカルチャー	個人および プロフェッショナル としての成長	部門別／ 職種別スキル
リーダー	・オンボーディング・セッション	・リーダーシップ・プログラム ・Global 360フィードバック	・製品・営業トレーニング
個人	・コアバリュー浸透プログラム ・DEIトレーニング	・ビジネススキル ・語学コース	・製造および修理拠点 従業員向けトレーニング
チーム		・異文化理解ワークショップ ・キャリアワークショップ	・マーケティング・アカデミー

オリンパスグループは、リーダー、個人、チームを対象に、グローバルおよび各地域で幅広い能力開発の機会を提供しています。

また、従業員一人ひとりがプロフェッショナルとして、個人としてのスキルを向上させるために、お互いに学び合うことに重点を置いています。

06

会社情報



会社概要

商号	オリンパス株式会社（Olympus Corporation）
上場市場	東京証券取引所プライム市場（証券コード：7733）
設立	1919年10月12日
本社	〒192-8507 東京都八王子市石川町2951
資本金	1,246億円（2024年3月現在）
連結売上高	9,362億円（2024年3月期）
連結従業員数	28,838人 （2024年3月現在）



執行役一覧



竹内 康雄

取締役 代表執行役 会長兼
ESGオフィサー（ESG担当役員）



ジョン・デ・チェペル

執行役 チーフメディカルオフィサー
（最高医学責任者）



フランク・ドレバロウスキー

執行役 エンドスコピックソリューションズ
ディビジョンヘッド
（最高内視鏡事業責任者）



泉 竜也

執行役 チーフファイナンシャルオフィサー
（最高財務責任者）



ガブリエラ・ケイナー

執行役 チーフストラテジーオフィサー
（最高経営戦略統括責任者）



小林 哲男

執行役 チーフマニュファクチャリング
アンド サプライオフィサー
（最高製造供給責任者）



倉本 聖治

執行役 セラピューティックソリューションズ
ディビジョンヘッド
（最高治療機器事業責任者）



大月 重人

執行役 チーフヒューマンリソースズオフィサー
（最高人事総務責任者）



アンドレ・ローガン

執行役 チーフテクノロジーオフィサー
（最高技術責任者）



ボリス・シュコルニック

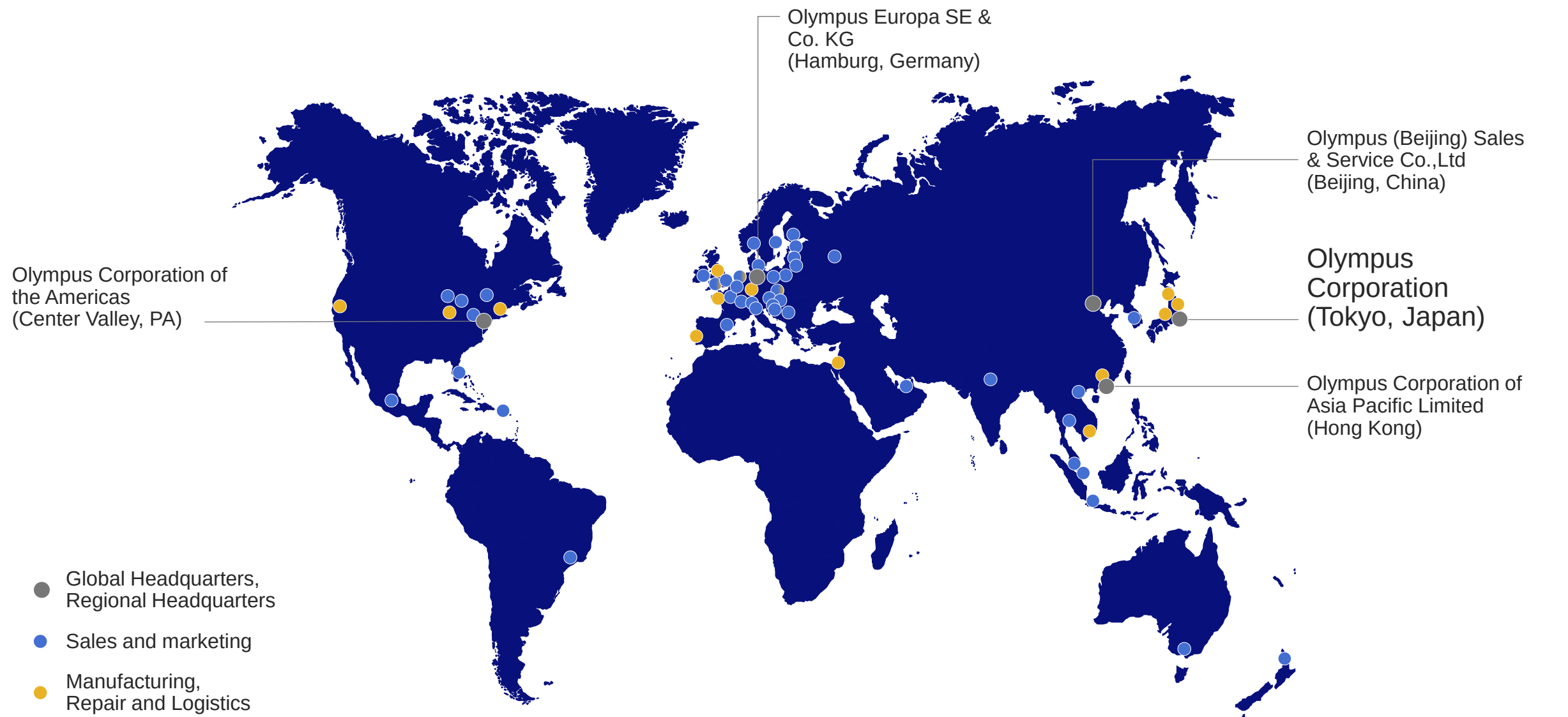
執行役 チーフクオリティオフィサー
（最高品質法規制責任者）



ニール・ボイデン・タナー

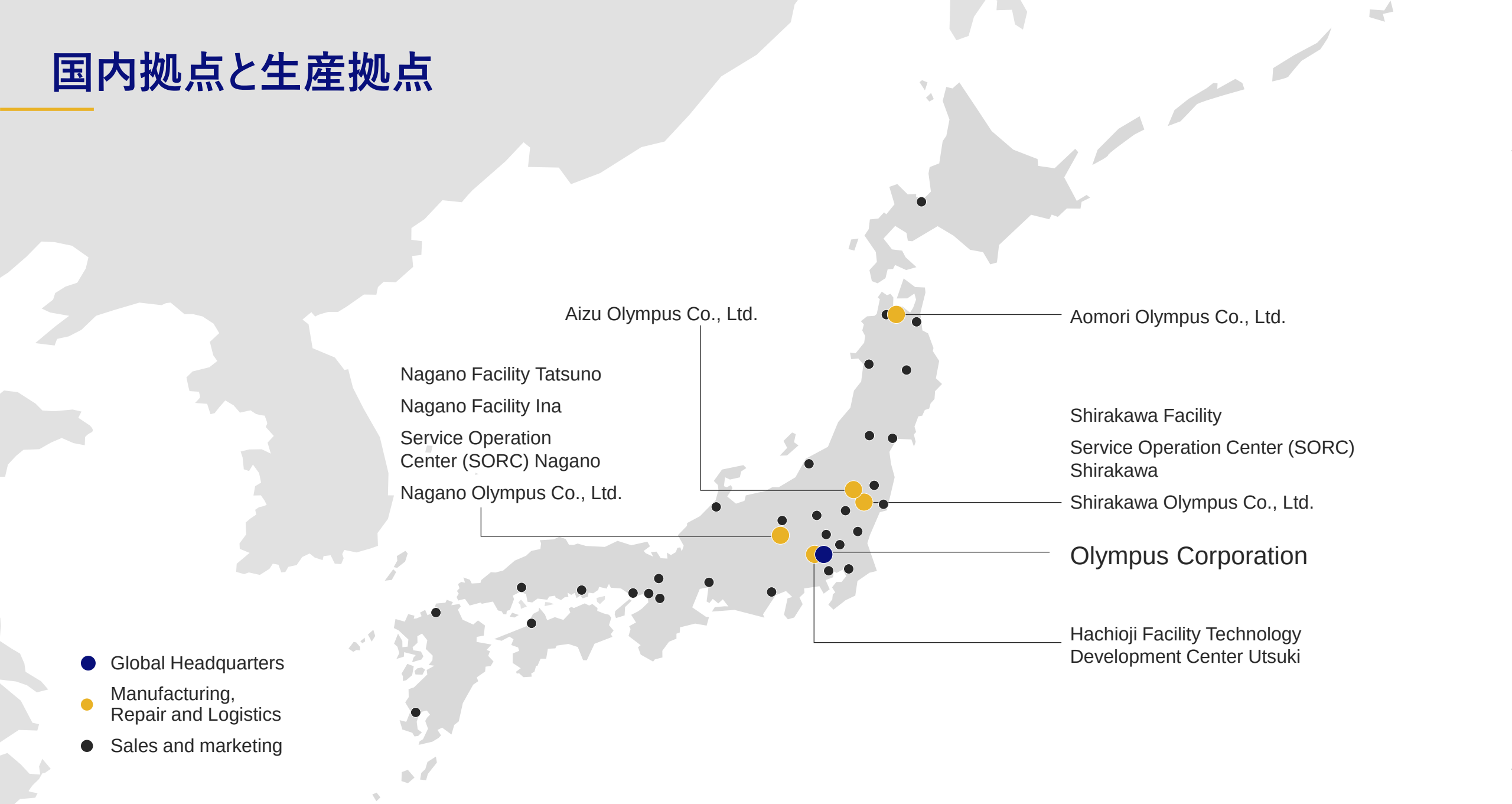
執行役 グローバルジェネラル カウンセル
（最高法務責任者）

Olympus Locations



As of January 2024

国内拠点と生産拠点





07

付録

オリンパスの歴史



顕微鏡旭号
を発売

1920



液浸系顕微鏡
昭和号 (GK) を発売

1927



オリンパス光学工業に
社名を改称

1949



ガストロカメラGT-Iを
発売

1952



1919

創業者・山下長
(やました・たけし) に
より顕微鏡の国産化を
目指し、創立。
当時の社名は
高千穂製作所
(10月12日)



1921

商標**オリンパス**を
登録



1936

写真レンズ「ズイコー」を開発し、
当社初のカメラ**セミオリンパス I**を
発売

1950

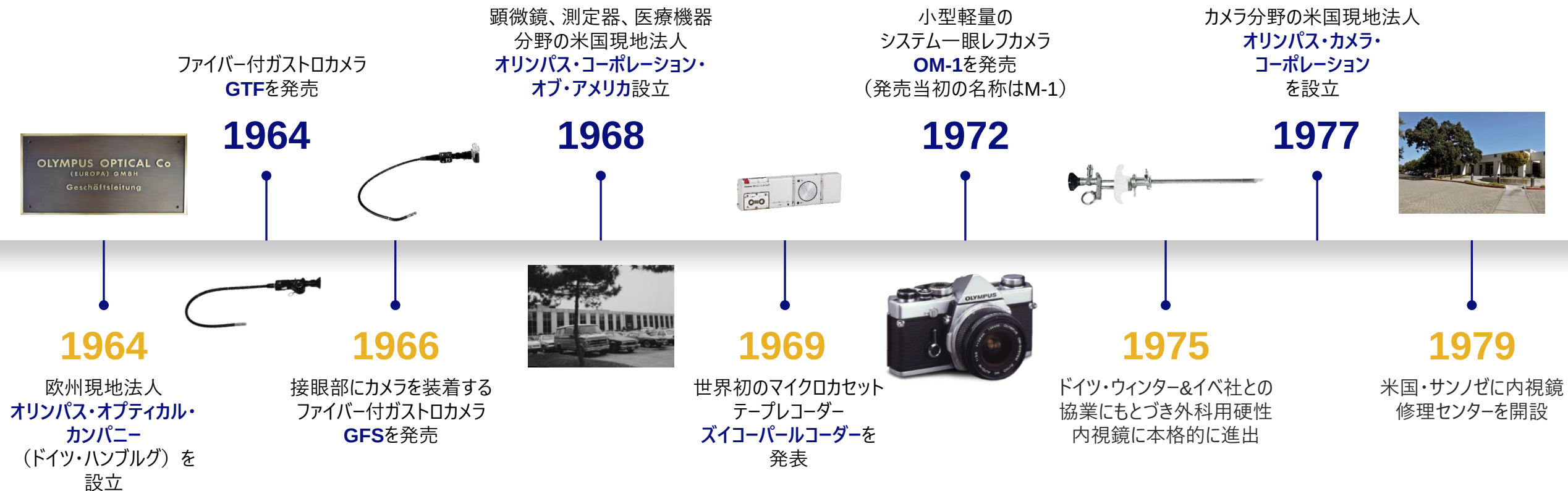
世界初の実用的な
ガストロカメラ
(胃カメラ) を開発



1959

革新的な
ハーフサイズカメラ
オリンパスペンを
発売

オリンパスの歴史



オリンパスの歴史



顕微鏡
BH2を発売

1980



1979

ウィンター&イベ社を
買収し、オリンパス・
ウィンター&イベ社を
設立

消毒液に浸漬可能な
完全防水の内視鏡
OESを開発

1983



1980

超音波内視鏡
システムを開発



1983

1983

世界初のAF機能搭載
万能顕微鏡AH2を発売

米国現地法人2社を
統合し、オリンパス・
コーポレーションを
設立



1985

内視鏡ビデオ
情報システム発売

英国・
キーメッド社を
子会社化

1987



1987

中国・北京に
駐在事務所を設立



内視鏡ビデオスコープ
システム
EVIS100(1989年) /
200(1990年)発売

1990



1991

最初の μ [mju:]
カメラを発売
このシリーズは
オリンパスカメラの
なかでもベストセラー
となる



オリンパスの歴史

無限遠光学系
(UIS光学系)を
採用したシステム
生物顕微鏡BXを
発売

1993



オリンパス初の
一般消費者向け
デジタルカメラ
CAMEDIA C-800L / C-400L
を発売

1996



半導体検査用顕微鏡
MX50を販売

1996



工業用ビデオスコープ
IPLEXを発売

2001



1995

欧州に内視鏡修理子会社
オリンパス・エンドリペア・
ヨーロッパを設立



1996

走査型レーザー
生物顕微鏡
FLUOVIEWを
発売



2000

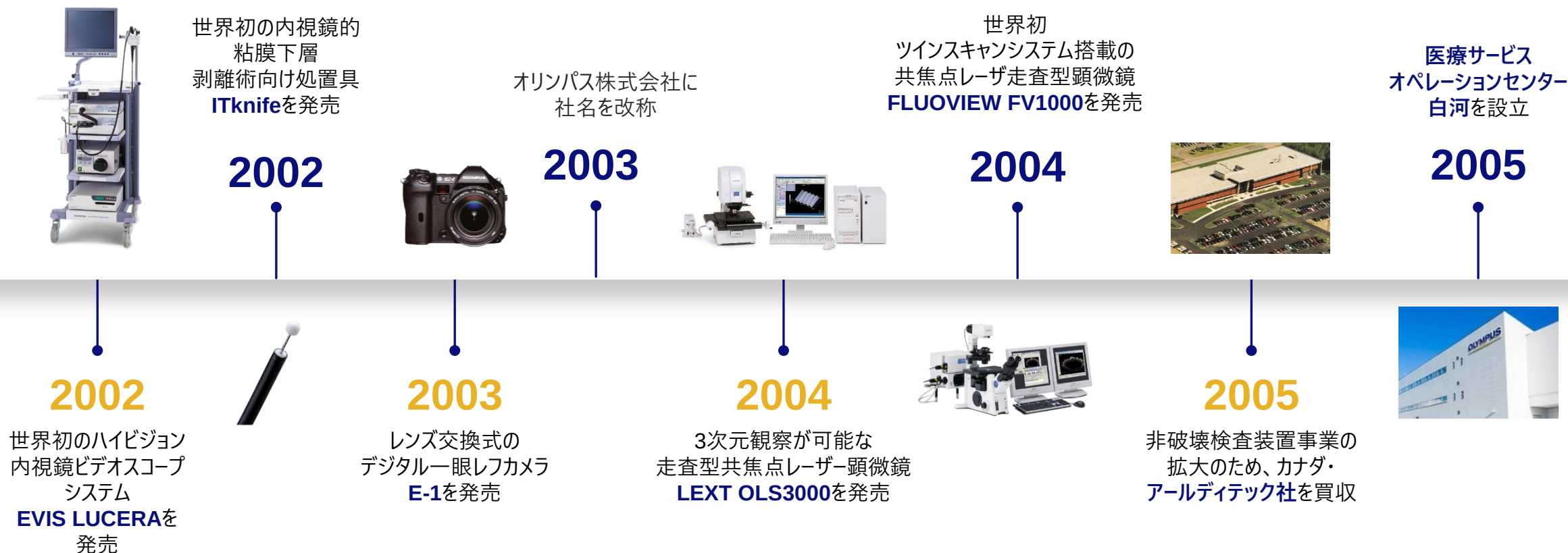
内視鏡
ビデオスコープシステム
EVIS EXERAを発売



2002

内視鏡手術/検
査用統合
ビデオシステム
VISERAを発売

オリンパスの歴史



オリンパスの歴史

中国に
オリンパス内視鏡修理
技術センター 上海を
設立

2006



外科事業の拡大
に向け、
米国・ジャイラス社
を買収

2008



超音波探傷器
EPOCH1000シリーズを
販売

2009



システム生物用
顕微鏡BX3を
発売

2010



非破壊検査
装置事業の
拡大のため、
イノバックスシステムズ社を
買収

2010



2006

狭帯域光観察が可能な
内視鏡ビデオスコープシステム
EVIS EXERA IIおよび
EVIS LUCERA SPECTRUM
を発売



2008

ベトナムに
医療機器と
デジタルカメラの
製造工場
オリンパスベトナムを設立



2009

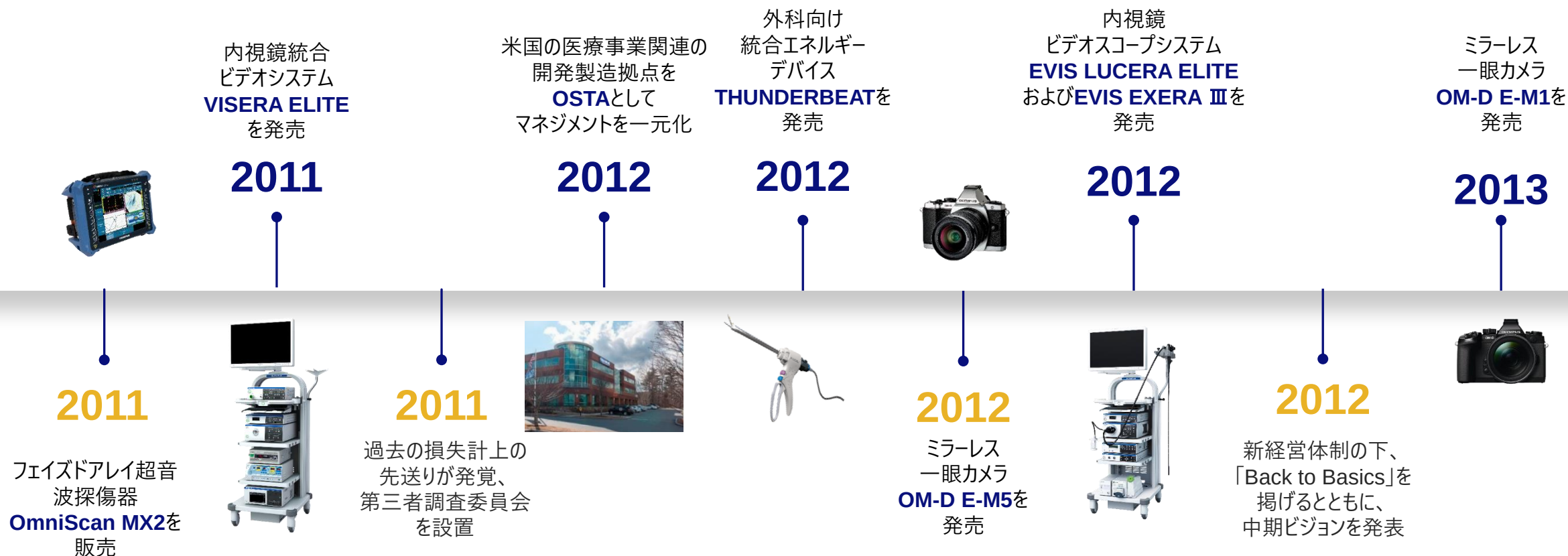
ミラーレス
一眼カメラ
オリンパス・ペン E-P1を
発売



2010

欧州の医療事業関
連の開発製造拠点を
OSTEとして
マネジメントを一元化

オリンパスの歴史



オリンパスの歴史



OLYMPUS

A thick, yellow, horizontal swoosh that tapers at both ends, positioned directly beneath the word "OLYMPUS".

Olympus is a registered trademark of Olympus Corporation, Olympus America Inc., and/or their affiliates.